泉穂のいまどき恋愛講座

《大切なもの》って、年齢によってどんどん変わってくる、とこの頃つくづく思うようになった。

たとえば、ハタチくらいの頃、私にとっての最優先事項は《恋》だった。女友達と旅行をするくらいなら、彼と狭い部屋でゴロゴロしている方がいいわ、と思っていたし、事実、そうしてきた。

若い女のコたちって、やたらと群れたがるでしょ？ハワイでもヨーロッパでも、同じようなカジュアルな洋服を身につけた4人づれの女のコの団体をよく見かけるし、大阪のミナミのクラブやバーでも、若い女のコたちは3人以上でいるケースが多い。

おそらく私は、それが苦手だったのだと思う。女のコのグループで群れている、という状態が。それは傍から見ても、スマートじゃないということを知っていたし、一つのこと（たとえばどこでランチを食べるかということ）を決定するだけでも、えらく時間がかかるし、群れて歩くとやたら他の歩行者の邪魔になる。高校卒業まではそんなことも深く考えずに、バンドのメンバー（女のコ5人）でよく行動していたものだけれど、大学生になった頃から抵抗を感じ始めて、それ以来、女のコで群れているよりも、恋人と二人でおいしいものを食べたり、旅行する方が良いわ、と思うようになったのだ。

ところが、ここ数年で、すっかり逆転してしまった。大学を卒業した頃から、ようやく、女友達と素敵な関係が築けるようになった。不思議だけれど、ごく自然に、そうなっていた。

おそらく、それぞれがある程度、精神的に自立し始めたからだと思う。そして、理想的な人間関係というのは、精神的に依存したり、頼り切ったりしている限りは築けない。

若い時、女のコって、べったりと依存し合うでしょ？適度な距離を置いて付き合うことなどできないから、どんなことでも共有し、何でも相談し合う。トイレットまで一緒に出かけてしまうし、それこそ失恋でもしようものなら、相手の男のところに怒鳴り込んでしまう。「あんたって、酷い男ね！彼女の気持ちも解からないなんて！」などと、本人にしてみれば正義感を発揮しているつもりで、男に詰め寄ったりするのだ。そのくせ、なぜかその男と恋に落ちたりして、あっさりと親友を捨ててしまったりする。一体、この友情って何なわけ？

ところが、お互いある程度精神的に自立した女同士なら、相手を尊敬し合うことができるし、いつもべったりしているのではなく、適度な距離を保つことこそが大切だということも解かってくる。失恋した時、間違っても相手の男に怒鳴り込むなんて失態はやらかさないし、「最低の男！」などと罵ることもない。失恋した方も、女友達の迷惑もかえりみず、毎晩電話で2時間も泣き言を聞かせるなんて事もやらかさない。喪失の苦しみは、一人でひっそりと葬るものだということを知っているからだ。

こういった関係を築くのは、たしかに若いうちは難しい。私も20代後半になって、ようやくそういう付き合いが可能になった。そして、それは決してたくさんの数ではない。一緒にいて、心から気持ち良いと思える女友達なんて、本当に一握り。だから、彼女たちを、絶対に失いたくない。恋人を見つけるよりも、素敵な女友達を見つける方が難しいとさえ思っているくらいだ。

最近私は、本当に気の合う女友達と2人で、夜遊びをする本当の楽しさを知ってしまった。おいしいカクテルをいただきながら、楽しい会話に花を咲かせる。あるいは一緒にクラブに踊りに行き、可愛い男のコを見つけて声をかけたりする。私が好みの男のコを見つけて話をしていても、彼女は怒ったりしない。《お楽しみね》といった感じのウインクを送ってくる。ところで私は、その男のコと消えたりしない。ひと時、会話を楽しんだら、最終的には彼女と一緒に帰るか、彼女と別のバーに飲みに行く。つまり、その場に彼女を置き去りにしてまで、どこかへ行きたいほどの男なんて、そうめったに出会えないということだ。

ただし、もし、いつか、そういう男のコが現れたとして、私が「ごめんね、彼と消えるわ」と言ったとしても、彼女はニヤニヤと笑って許してくれるだろう。もちろん、逆の立場でも、同じこと。

フェイマーズの女のコたち。恋に夢中になった青春時代を過ごしたあとで、少し大人になった時、まず素敵な女友達を見つけてください。それはあなたのこれからの人生を、きっと豊かにしてくれるはずだから。

MARUOKA IZUHO

プロフィール　1965年生まれ。
同志社女子大学卒、（株）電通プロックス勤務を経て、現在コピーライター。広告のほかＦＭラジオ番組のシナリオや出演もこなす。著書に「ありふれた無邪気が罪になる」（ＰＨＰ研究所）、「キスまで、待てない」（大和書房）など。

マンボカーパラダイス
マンボバスで九州キャバレーツアー

グランドキャバレーって行ったことありますか？紳士淑女の世界の社交場、飲んで踊ってショーを観て、デラックスな内装にステージには譜面台がズラーッと並びビッグバンドが勢揃い。専属の司会者がいて、「みなさんこんばんは、ビッグショーのお時間がやって思わず苦笑いしちゃったりで、大変な盛りあがりでした。専属の司会者が「東京では今や若者に大人気のパラダイス山元と東京ラテンムードデラックスでございます〜」というたびに、背筋に電流が

りのキャバレー営業を続けています。その昔京都にも有名なグランドキャバレーがあったのを覚えていますか。その名も「ベラミ」今巷で話題の奥村チヨさんもここでの営業のステージがそのままライブ盤になったりしています。そしてあの長い抗争の引き金になった組長射殺事件もここで起きました。全国には、いわゆるピンクキャバレーのような店やショーパブ、キャバクラを除いて純粋にグランドキャバレーといえるところは、今ではほ